

記入例

インターナショナル・スタディーズ(三)活動報告書

所属学科： 国際農業開発 学科

学籍番号： 12345678

氏 名： 開発 拓郎

渡航先： アメリカ合衆国ミシガン州ランシング農大農場（アメリカ農大農場）

活動報告書

1. 活動期間および活動内容

活動日	活動・作業名	場所	備考
8月1日(月)	ダイズの収穫準備	アメリカ農大農場作業小屋	活動①
8月2日(火)	ダイズの収穫作業	アメリカ農大農場穀物圃場	活動②
～			
8月8日(月)			
8月9日(火)	ダイズ品質管理技術講習	ミシガン州立農業試験場	活動③

2. 活動内容（活動内容を活動・作業名ごとに具体的に記載）

① ダイズの収穫準備（機械整備）

アメリカ農大農場の穀物圃場（総面積 500ha）で生産されているダイズを収穫するために、収穫作業で使用する機械の整備を行った。整備は、収穫機の作動確認や収穫用アタッチメントの状態確認を中心に行った。

なお、農大農場の収穫機は、50ha 用の中型機（農大機械製）が使用される。圃場面積に対し、導入されている収穫機の適用規模が小さいため、機械への負担を考慮し整備は特に重要な作業となる。

② ダイズの収穫作業

前日（8月1日）に整備を行った収穫機を使用して農大農場のダイズを収穫した。ダイズの作付面積は 200ha であり、農大農場穀物圃場の 2/5 を占めている。収穫機は、50ha 用の中型機を使用するため、1 日では収穫作業が終了しない。

また、私は実習者であり、農業機械の使用を許可されていないため、主な作業内容は、収穫機によって収穫されたダイズの運搬作業の補助や収穫後残滓回収作業の補助であった。

なお、8月3日（水）は雨のため収穫作業が中止されたため、当日は収穫機のメンテナンスや収穫したダイズを倉庫に運搬した。

③ ダイズ品質管理技術講習

8月9日は、実習受入先の技術者とともに、ミシガン州のランシングにあるミシガン州立農業試験場でダイズの品質管理技術の講習を受講した。講習会には、私たち以外に、ミシガン州ランシング周辺のダイズ栽培農場の農場主やミシガン州立大学の学生などが参加した。参加者の人数は55名であった。

講習会は、午前中に、ダイズの品質管理に関する講義を受け、アメリカにおけるダイズの品質管理の現状について学んだ。午後には、試験場の圃場および試験場内の実験室において、ダイズの品質管理の問題点や改善点を含め、実践的な推奨技術について学んだ。

3. 感想（所感）（期間中（8月）の活動や作業の感想や所感を記載）

ミシガン州では、8月がダイズの収穫時期であり、私の主な活動も、ダイズの収穫とそれに関わる作業であった。

アメリカ農大農場の管理者の方から、ダイズの作付面積に対し、現在使用している収穫機のサイズが小さいため、収穫作業の効率があまり良くないという話を伺っていたが、実際に作業を行ってみると、収穫物の運搬が人力であったり、頻繁に機械のメンテナンスが必用であったりと、確かに非効率と感じられる作業が多かった。

この作業を通して学んだことは、農業を経営していく上で、常に規模に対して適正な投入物を準備できるとは限らず、与えられた環境の中でいかに効率を上げていくことが出来るのかということであった。

また、ダイズの品質管理の講習会では、ダイズの収穫後の管理がとても重要であることを学んだ。もともとダイズが酸化しやすいということは、アメリカ農大農場でも話を聞いていたが、酸化を防ぐために収穫後処理や貯蔵システムなどのさまざまな技術が開発され、普及されていることを学んだ。どんなに収穫量を多くしても、収穫後の処理を怠ると、販売量は減ってしまう。したがって、農業で利益を生み出すためには、ただ作って売ればいいのではなく、準備、栽培、収穫に加え、品質保持のための収穫後処理も重要な作業であることを学んだ。

8月の活動を通して学んだことは、どんな国や地域でも、農業を経営していくためには、それまでの技術にとらわれず、常に新しい技術を吸収し、その技術が利用できるかどうかも含めて、試行錯誤していくことが重要であるということであった。



アメリカ農大農場のダイズ圃場



トラクターに収穫用アタッチをつける